

News Letter

2016.06

Vol. 07

Contents

- アンケートの御礼と御報告
- 秋田大学医学部キャリア教育見学
- 医学部交流会でセンターをPR
- 子育て支援ガイドブック発行
- インタビュー File6 縄田智子先生

御礼と御報告

WLBに関するアンケート実施

センター委員竹尾先生が医局長会で報告発表！



女性医療人キャリア支援センターでは、3月7日～18日に挟間キャンパスで医療に従事する教職員の方を対象に『WLB（ワークライフバランス）に関するアンケート』を実施させていただきました。

総配布数1,120件で、621件の回答（回答率55.4%）をいただきました。皆様大変お忙しい中、アンケートにご回答いただきありがとうございました。

アンケートの結果は、報告書にいたしまして後日部局に配布させていただきますのでぜひご覧下さい。

先日の医局長会で、当センター委員の竹尾先生から医局長の皆様へ、アンケート結果の発表をさせていただきました。

センターは少しでも大学が働きやすい環境になるようにサポート出来ればと考えており、妊娠出産に関係ない方や、男性は支援が受けられないから自分には関係ないといった意見もありましたが、そうではなくて職場の

環境改善のためにもっと声をあげていただいて、その入り口としてセンターを利用して欲しい。何か問題があってもその科でしか解決出来ない事も多いかと思いますが、第三者が介入することで解決が早まったり、問題が緩和されることもあつたりするのではないかと話されました。

女性医療人キャリア支援センターでは、これからも皆様のご意見ご要望に少しでもお答え出来るよう、努力してまいりますのでこれからもますますのご理解とご協力をお願い申し上げます。



活動報告

秋田大学 医学部3年生向けキャリア教育見学

5月11日（水）秋田大学にて行われた、医学部3年生向け、男女共同参画講義を見学してきました。秋田大学では、毎年医学部3年生に5コマ1日かけたカリキュラムを行っているそうで、その講義は大変素晴らしいと毎年全国から見学者が後を絶ちません。

講義を行うのは、昨年度当院にもセミナーにお越しいただいた、蓮沼直子准教授。

まずは、総論の講義で基礎系と臨床系の男性教員による講義が行われる。男女共同参画は女性のためのもではなく、医師全体の問題として学生に対するメッセージを送る。

その後は学生は講義室からチュートリアル室に場所を移動し、グループワークを行う。これは男女混合のグループで、ある架空の医師夫婦に関するシナリオをCase1～3として3つのパターンを渡し、それぞれの問題点・対策・最も最善と考える選択と理由を討論し、その後の発表会でグループ毎に発表させる。

学生は異性の違いやバックグラウンドの違いにより考え方や意見が異なることを経験し、学生自身が卒後の様々なライフイベントや岐路に立った時に、自らのキャリアをどのように形成していくべきか考える機会になる。

その後も先輩医師の経験談を聞き、最後にそれぞれの「キャリア未来年表」を作成して終了する。「キャリア未来年表」は仕事やプライベート、マネープランを卒後10年後くらいまで自由に記載する。すらすらと記入する学生もいれば、筆の進まない学生もいるがそれは現在まで自分のキャリアプランについてあまり考えてこなかったことを意味することでそれを自覚するだけでも大変意味のあること。あくまで計画表ではなく、夢や将来のビジョンを言語化して意識化させるツールである。

日本の医学部における女子学生の割合が増加しつつある近年では、医療の現場でも男女共同参画の推進が必須で、特に学生時代からの教育の必要性が認識されてきた。

大分大学医学部でも今年度より導入を検討中である。



センターの活動

医学部交流会で、センターをPR



6月24日（金）レンブラントホテルで開催された医学部5,6年生と医局の「大分大学医学部交流会」にて、女性医療人キャリア支援センターのニュースレターとチラシを学生に配布し、センターのPRをしました。少しでも多くの学生が、大分県にそして大分大学に残ってもらえるといいですね。



お知らせ

働く医療人の為の

子育て支援ガイドブック を発行しました

女性医療人キャリア支援センターでは、妊娠・出産・育児などのライフイベントに伴う休暇制度や支援制度についてまとめた「子育て支援ガイドブック」を作成いたしました。

子育てをしながら働き続けられるよう、仕事と家庭を両立できるよう、是非ご活用下さい。

必要な方は、センターでお配りしております。

お気軽にお申し付け下さい。

(内線5715)



インタビュー

このコーナーでは、大分大学医学部附属病院で働く医療人の方々の声をお届けします。今回は、挟間キャンパスでの長年のお勤めを終えられ他病院へ異動する先生にお話を伺いました。

腎臓内科助教 縄田 智子 先生

挟間キャンパスに勤務15年。当センターの委員としても大変熱心に活動して下さいました。

File 6

大学勤務はどうでしたか？

大学の一番のメリットは、多くの人に出会えるということだと思います。

女性医師というお仕事はどうですか？

女性をあまり意識せずに仕事してきたので、特別男女差を考えたことがありませんでした。意識する必要がなかったのは、周りの人々に恵まれていたからだと思います。

医師のワークライフバランスをどう考えますか？

大切だと思います。ワークライフバランスを意識しないと、仕事だけで時間が過ぎてしまうので、メリハリをつけることが大事だと思います。

女性医療人キャリア支援センターの委員をしてどうでしたか？

ワークライフバランスを意識するようになったので、委員になって良かったです。

他大学との交流もとても刺激になりました。

縄田先生自身のこれからの目標をお聞かせ下さい。

何事においても悔いが残らないこと、が目標です。

◆メッセージ◆

“女性が活躍しなくてはいけない”という最近の風潮を意識することなく、自然に、男女共に活躍されることをお祈りしています。



こんな縄田先生ですが、「先生、ご趣味は？」と聞くと「実はテレビ人間なんです。ドラマを撮り溜めてみます！」と教えてくれました。

縄田先生の意外な一面が見えました！

センターの活動に積極的に取り組んでいただいた縄田先生がいなくなるのは、とても寂しいですが、次の病院に行かれても、ますますのご活躍を期待しています。

By センタースタッフ